



10	6	3	1
11	7	4	
12	9	8	2

1.屋内の活動が制限されたコロナ禍の際に、公園で炊き出しをしながら活動 2.藤沢市片瀬に設けた寺子屋「みかじりさん家」。小学生の居場所のみならず、高齢者までも含めた地域コミュニティの再生を目指す 3.子ども弁当は登録する店舗へ400円で調理を依頼し、子どもが持参する100円と残額300円を同団体が補填する仕組みで成り立っている 4&5.多くの人の温かい手が関わった弁当を食べると、自然と笑顔が広がる 6.ボランティアスタッフとして、学習支援などに関わる湘南学園高等学校の生徒と将来について語る原田さん 7.藤沢市内の田んぼで米づくりも手掛けける 8.子ども達とボランティア学生の交流でBBQを楽しむ 9.300円の募金が夏休みの誰かの1食分になる 10.活動の周知のために、子ども祭りなどのイベントも随時開催 11&12.農家からの食材提供で、地域の飲食店が調理をし、子どもが食べるという地産地消の循環が生まれている



Profile
湘南まぜこぜ計画
共同代表
原田健さん

子どもが
子どもらしく
自ららしく居られる
よ

湘南まぜこぜ計画

Data

湘南まぜこぜ計画

所 藤沢市朝日町8-10-105 090-5449-1160
國 <https://www.mazekoze.org/home>

「子どもが自分らしく、ホッとできる場所が必要」との想いから、藤沢市内で子ども達の食や学習の支援、居場所を創出する活動を始め、2018年にNPO法人化。空き家を活用した「寺子屋」の運営や、多世代が交流できるコミュニティを形成している

「今度遊びに行くね！」自転車で通った近所の子どもが元気な声で挨拶をする。ここは「湘南まぜこぜ計画」が運営する「寺子屋」。藤沢市にある一般住宅「みかじりさん家」を借り受け、子どもや地域の居場所づくりを行う。学校でも家でもなく、気軽に通える場が小学校区に一つ以上あるのが理想だと考えています。寺子屋という名称で利用無料・登録不要・子ども達が好きな時に来て、好きな時に帰れる場所です」とは代表の原田健さん。自身は塾や公立学童で働いてきた経験を持つ。もつと自由度の高い子ども達の居場所の必要性を感じた、と設立の動機を語る。

「私が働いていた当時の学童は、70～80人の子どもが放課後、狭い空間にわざと集まります。勉強が全然分からぬ子、長期休みの時はご飯を食べてきていない子など、様々な困り事を抱えた子どもがたくさんいました。しかし少ない職員で全体を運営するため、個別の対応ができないことが多く、歯痒い思いをしていました」

そこで一念発起をし、2011年に寺子屋を、2018年に湘南まぜこぜ計画という名称で

塾講師や公立学童勤務を経て「NPO湘南まぜこぜ計画」を設立、共同代表となる。藤沢市議は4期目となり、行政とNPOの二刀流で地域社会の課題解決に取り組んでいる

NPO法人化を実現。そして勉強の補習や心のケアと共に、取り組んだのが、子ども達の食の課題でもある相対的貧困（その国の文化水準・生活水準と比較して困窮した状態）が言われていた時で、さらにはコロナ禍が直撃する。

「コロナで給食がなくなると、家庭の経済的な事情、仕事や病気で食が満足にとれない子どもが急増しました。そこで公園の一角を借りて、昼ごはん食堂を始め、それを発展させる形で「未来食堂」も弁当も始めた」

その弁当とは、子どもが100円を持って、飲食店などの協力店から食材提供を受け、さらに各所の寄付で原資を貰い、協力店に調理を依頼。2022年以降、毎夏実施されており、現在は藤沢市内19ヶ所に展開。しかし今年は食材の高騰で、協力店舗も厳しい表情を浮かべるという。

「子ども達から笑顔になることが、地域にとって重要です。困った時に手助けし合える、大人も子どもも属性も関係ない『まぜこぜ』コミュニティを堅持していかないと、温かな眼差しの奥に、強い意志を持つて原田さんは語る。